

S3地方創生ゼミ(ゼミ指導教諭 後藤和幸)

農業を他地域化してまちおこしが可能

2年6組35番 谷内田 晴

アブストラクト(探究内容の要約)

近年、函館では平均気温が急上昇して、かつて取れていたはずの農作物・海産物が思うように収穫できない状況に陥ってしまった。そこで私は、その上がる平均気温を活かして、農業の他地域化ができるのではないかと考えた。

はじめに

高校2年に入ってから、大泉氏が函館市長に初当選し、そこで彼は「函館駅に新幹線乗り入れを実現したい」とおっしゃっていた。もし実現した場合の函館を構想することに興味を持っていた。しかし、現在の函館は経済力が弱く、このままでは新幹線が通っても経済は衰える一方だと考えました。そこで私は今の函館は農業に力を注いで、経済を回していくのが良いと考えた。

1 実験、文献調査、社会調査などの仮説

函館平野は水はけが良い。そのため稲や果物を育てるのに適当なのだ。例えば、ふっくりんこなどの米類、トマト、苺、リンゴ、ニラなどの青果などがある。しかし、それらの中で全国的にもポピュラーとなっているのは、ふっくりんこだけだと考える。その他は地域のスーパーマーケットや道の駅などで地場野菜として収まっている。なぜ青果類が普及していないか考えてみたところ、それらには特徴的な名前がついていないことがわかった。ふっくりんこは名前もユニークであり、美味しいから普及したのだと思っている。僕はそれらの野菜が地元だけに収まっているのがもったいないと考えた。函館平野の水が良い環境で育った野菜・果物を日本中に届けたいという想いが強くなった。

2 結果

どちらも果物に焦点を当てている特徴がある。しかもどちらも函館平野に似ていて水はけが良い。さらに函館平野は「墟土」と呼ばれるたいそう古い土壌で構成されていて、それは果物を育てるのに最高の環境だということがわかった。水も良質で美味しい品種を育てられる。

3 考察

もし、函館近辺で大規模に果物を栽培できるのなら、海と陸で農業の二極化を図ることが可能になる。例えば、ワイナリー工場を整備して果物系のお酒を広める。そして加工したスイーツやお菓子を全国に広めるために北海道新幹線を使う。

4 まとめと結論

函館で果物を育ててブランド化を狙えば、現状は変えられると確信している。それを実現させるために函館駅を新幹線を通して全国に広めると、まちおこしが可能。

5 課題

今の函館の気候に最適な果物を育てれば良いか。

北海道新幹線函館乗り入れの現状

6 謝辞。

ご協力頂いた皆様ありがとうございました。

7 参考文献

<https://www.naro.go.jp/laboratory/harc/dosei/026065.html>

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gmpp/pdf/guide/reports/report/01_08.pdf

https://www.snowseed.co.jp/wp/wp-content/uploads/grass/grass_196004_06.pdf